

# ありがとうリスペクトキャンペーン

日本ミニバスケットボール連盟では、平成25年から「ありがとうリスペクトキャンペーン」を展開しています。本連盟に関わるすべての皆さまにねらい、趣旨、内容をご理解いただき、今後の各種大会、また練習の中でも積極的な取り組みにご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 1. ねらい

ミニバスケットボールのゲームを一緒にプレイしてくれる仲間や関係者に対して、いつも感謝の気持ちを持ってプレイすることの大切さと素晴らしさを伝えていく。

## 2. キャンペーン実施の趣旨

競技登録者数15万人の児童が全国各地で数多くの大会やゲームに参加しているが、「暴力根絶にむけて」等の指導文書や都道府県ミニ連からも幾度となく指導文書が発せられているにもかかわらず、指導者や保護者のトラブルや不祥事が絶えることが無いのも事実である。

多くの児童や指導者は、「友情・ほほえみ・フェアプレー」の精神にのっとって活動している中、ごく一部ではあるが、ゲーム終了後、相手チームの児童に対して感謝の気持ちや、ありがとうの声をかけられないケースや相手チームの児童に誹謗中傷、蔑むような行為に及ぶことも見受けられる。

勝敗にこだわり、勝てないチームの指導者は良い指導者ではないといった勝利至上主義等、指導者や保護者がジュニアスポーツにおける正しい知識や見識の欠如がこうしたことを引き起こしていると思われる。

関係者全員が、子どもの人権を尊重し、ミニバスケットボール本来の命題である普及・育成活動に邁進することを望み、標記キャンペーンを実施するものとする。

## 3. 内容

- (1) ゲーム開始時にゲームキャプテンによる審判への握手に続いて、向かい合ったコート選手同士の握手。
- (2) ゲーム終了の時に向かい合ったコート選手同士による握手。  
（「ありがとう」を添えて）
- (3) 終了後のベンチスタッフによる相手ベンチスタッフ及び審判への握手。  
（「ありがとう」を添えて）

※従前からの選手による相手ベンチや応援席への挨拶は、時間を要さない範囲での対応となります。

## 試合中のベンチマナーについて

ベンチスタッフのプレイヤーに対する体罰はもちろん、罵声・暴言・威圧・審判に対するクレームに対しては、競技規則を厳密に適用します(次ページ参照)。

ゲーム中、ミスをして一番ショックを受けているのはプレイヤー本人です。プレイが身につけていないのであれば指導者の責任です。約束事を忘れていたのであれば、思い出させるような指導を心がけるべきです。罵声・暴言・威圧から「ほほえみ」は生まれません。

## 試合中の応援マナーについて

審判に対するクレームは、試合の進行の妨げになるため、ベンチスタッフに指導し、状況によっては応援を止めて退場していただくこともありえます。

選手に対する罵声・暴言・威圧も同様です。

ありがとうリスペクトキャンペーンの趣旨にご理解いただき、相手チームや審判に感謝し、自チームの児童に賞賛・労いの言葉と態度をお示し下さい。

子どもの意欲と自己肯定感を高めるための応援をチームで工夫して下さい。

2007～

ミニバスケットボール競技規則 第8章 行為についての規定

第43条 テクニカル・ファウルの原則より

～前略～

コーチがスポーツマンらしくないふるまいをした場合テクニカル・ファウルが宣せられる。この場合相手チームに2個のフリースローが与えられる。

フリースローが成功してもしなくても、フリースローの後はオフィシャルズ・テーブルから遠いほうのセンターラインのアウトでシューター側のチームにスローインのボールが与えられる。

第43条 コーチのテクニカル・ファウル

コーチはマナーの面でもチームの指導者であるべきで、自らも見苦しい言動があってはならない。

コーチが審判、テーブル・オフィシャルズ、相手チーム、自チーム等に対し、失礼な態度で接したり、言動などがあつたりした場合は、厳しく罰するべきである。

～後略～

各大会で、マナーに違反する事例があった場合は、尾三地区ミニバスケットボール連盟から当該チームへ注意または指導等の処分があります。

参加者全員が「ナイスゲームだったね」「いい大会だったね」と思い出に残るものとなるよう、皆さまのご協力をお願いします。

平成26年6月

尾三地区ミニバスケットボール連盟